

第 25 回（平成 30 年度 第 3 回）黒部市公共交通戦略推進協議会 会議録

開催概要

- 日 時 平成 31 年 1 月 25 日（金）14：00～
- 場 所 黒部市役所 2 階 201～203 会議室
- 出席者 協議会委員 19 名

委員等名簿

区分	所属	役職	氏名	出欠等	備考
第 6 条 第 2 項 第 1 号	地域公共交通網形成 計画を作成しようと する市町村	黒部市長	大野 久芳	本人出席	会長
第 6 条 第 2 項 第 2 号	関係する公共交通 事業者等	富山地方鉄道株式会社専務取締役 黒部市タクシー協会会長 あいの風とやま鉄道株式会社総務企画部長	中田 邦彦 神谷 尚機 助野 吉昭	本人出席 本人出席 本人出席	
	関係する道路管理者	富山県新川土木センター入善土木事務所長 黒部市長《再掲》	酒徳 鋼一	所長代理 茂崎 忠博	
第 6 条 第 2 項 第 3 号	関係する公安委員会	黒部警察署長	坂田 俊一	本人出席	
	地域公共交通 の利用者 市民ボランティア	黒部市自治振興会連絡協議会	能登 政雄	本人出席	
		黒部市民生委員児童委員協議会長	田村 豊嗣	本人出席	
		特定非営利活動法人黒部まちづくり協議会 ワンコインプロジェクトリーダー	菅野 寛二	本人出席	
		黒部市老人クラブ連合会長	村上 勝悦	本人出席	
		くろべ女性団体連絡協議会長 公募委員	新村 恵子 中谷 靖子	欠席 欠席	
	政策支援 アドバイザー	東京大学大学院工学系研究科教授	原田 昇	本人出席	
	その他の当該市町村 が必要と認める者	北陸信越運輸局交通政策部交通企画課長	井藤 太亮	係員 波多野 葵	
		北陸信越運輸局鉄道部計画課長	平山 一良	欠席	
		北陸信越運輸局富山運輸支局 首席運輸企画専門官	長谷川 僚一	本人出席	
富山県観光・交通・地域振興局 総合交通政策室次長		鈴木 邦夫	主任 重田 大輔		
地域交通・新幹線政策課長		川端 康夫	本人出席	座長	
黒部商工会議所会頭		川端 康夫	チーフ マネージャー 高橋 昌美		
一般社団法人黒部・宇奈月温泉観光局代表理事		川端 康夫			
Y K K 株式会社 執行役員 黒部事業所長	浅野 慎一	本人出席			
富山県交通運輸産業労働組合協議会議長	石橋 剛	本人出席			
宇奈月商工振興会	羽柴 進一	本人出席			

- 事務局：黒部市都市建設部都市政策課：島津部長、山田理事、廣木課長、神保主幹、下坂係長、水島技師、大坂主事

会議次第

- 1 開会
- 2 あいさつ（会長 大野黒部市長）
- 3 経過報告
- 4 協議事項
 - 議案第 10 号 生地循環線の一部運行形態の変更について
 - 議案第 11 号 無料公共自転車「ちょいのり黒部」の運用再開について
 - 議案第 12 号 交通まちづくり創生事業について
 - (1) 平成 30 年度事業の中間報告について
 - (2) 平成 30 年度次世代型交通システム実証実験について
 - (3) 平成 30 年度モビリティハブの整備概要について
 - (4) 平成 31 年度事業計画について
- 5 報告事項
 - 報告第 7 号 黒部警備株式会社の合併について
- 6 その他
- 7 閉会

開会

定刻通り開会した。

挨拶（大野市長）

●市長より挨拶を行った。

まず、冒頭に本市の職員の不祥事によりまして、ご臨席の皆様方にも何かとお騒がせをし、誠に恐縮であります。本日は、第 25 回の黒部市公共交通戦略推進協議会のご案内を差し上げたところ、委員の皆様方におかれましては、何かとご多用であったと存じますが、ご出席いただき誠にありがとうございます。また皆様方には、本市の公共交通の運営に深いご理解、ご協力を賜っていることに対しまして、改めて感謝と御礼を申し上げます。

まず、本日のご挨拶の冒頭に、本市での開催が決まっております、イベントについてお知らせをいたします。本年 4 月 20 日、21 日の両日に渡りまして、人気女性アイドルグループもいろクローバーZのコンサートが宮野運動公園陸上競技場にて開催することが決まりました。このイベントは 2 日間で延べ 3 万人のファンが全国各地からお越しになるという、本市では過去最大級の大型イベントであり、我々の住むこの地域への経済波及効果はもとより、黒部市の全国的な知名度アップが期待できるものと考えております。

また、両日は多くのももクロファンが北陸新幹線をはじめ、各鉄道や路線バス、タクシー等の交通機関を利用されることと思います。会場スタッフやボランティアスタッフによるおもてなしは、当然のことでございますが、各運行事業者各社におかれましても、黒部は良かったと思っただけのような、おもてなしの心での運行を心掛けていてもらいますよう、誠に僭越ながらよろしくお願いを申し上げるところでございます。

先月 14 日、JR 西日本・東日本から、北陸新幹線の春のダイヤ改正の概要が発表され、改正日が 3 月 16 日（土曜日）に決まったところであります。黒部宇奈月温泉駅につきましては、現行通り「はくたか」が 15 往復運行され、ダイヤにつきましても変更がないと伺っております。また、一昨日、あいの風とやま鉄道から、ダイヤ改正の発表がされたところであり、富山地方鉄道におかれましては、現在、ダイヤの改正作業を進めておられることと存じております。本市は、鉄道を基軸とした公共交通網を形成しており、鉄道は市民生活に欠かせない重要な移動手段であります。鉄道各社におかれましては、今後も利便性向上に努めていただくとともに、本市のまちづくりと一体的な取り組みにご理解とご協力をお願いしたいと思います。

一方、市内バス路線の利用者数につきましては、残念ながら依然大変厳しい状況が続いております。本協議会では、こういった状況を打開し、持続可能な公共交通網の形成を目指すため、東京大学の先生方のお力添えをいただきながら、平成 28 年度から 4 ヶ年計画で交通まちづくり創生事業に取り組んでいるところであります。これまで移動履歴調査や次世代型交通システム網実証実験、さらには南北循環線の運行、モビリティハブや無料公共自転車「ちょいのり黒部」の整備など、多くの事業を着実に進めているところでありますが、残念ながらその効果は限定的であり、なかなかバス交通網の活性化に繋がっていないのが現状であります。持続可能な公共交通網の形成には、なかなか一筋縄ではいかない部分が多く、一定程度の時間を要することは、やむを得ないと考えているところであり、今後も引き続き、委員の皆様方のお知恵やお力をお借りしながら、我慢強く取り組んでいく必要があると考えております。

本日の協議会では、昨年 8 月から一時的に休止しております、無料公共自転車「ちょいのり黒部」の運用再開、また、交通まちづくり創生事業の今年度の中間報告及び来年度の事業計画等を中心に協議していただくことと致しております。どうか委員の皆様方には、活発にご議論いただき、有意義な協議会となりますよう期待いたしまして、私からの冒頭の挨拶に代えさせていただきます。本日はどうかよろしくお願いたします。

経過報告

●事務局より、資料に基づき経過報告を行った。

○進行：廣木課長

ご質問がある人はいるでしょうか。ないようなので議事に入る。

本日の委員の出席は、22 人中代理出席も含め 19 名で、要件を満たしていることを報告する。それでは、議事に移らせていただく。川端座長に進行をお願いする。

協議事項

(1) 生地循環線の運行形態の一部変更について

●事務局より資料 1 に基づき、生地循環線の運行形態の一部改正について説明を行った。

○川端座長

何か質問はあるか。利便性を高めるうえでの変更である。

○浅野委員

住民の要望が来てから、改正までの期間はどれくらいあったのか。

○事務局

まず、平成 30 年 4 月に現ダイヤに改正を行ったところ、夏前に沿線住民からダイヤ改善に関する要望を聞き、振興会の方にも確認したところ、振興会にも同様の要望があがっていた。また、民生委員の方からも、年配の方から要望があがっていることを確認した。このような状況を踏まえ、概ね 6 月くらいから地元の民生委員と調整に入り、4、5 カ月の期間を経て、地域の総意ということで運行事業者と協議を始めた。

○浅野委員

実際のダイヤ改正はいつか。

○事務局

ダイヤ改正については、運行事業者と調整しているところであり、今年の 4 月 1 日になることを見込んでいる。

○浅野委員

このようなことをいうのは失礼かもしれないが、非常に長い時間が掛かっているように思う。今後、同様の要望があれば、決定までの動きを早くして頂ければと思う。よろしく願いたい。

○川端座長

ほかに質問はあるか。ないようなのでこの議題について賛成の方は拍手をお願いする。承認させて頂いてよろしいか。

（拍手にて承認）

○川端座長

ありがとうございます。

(2) 無料公共自転車「ちょいのり黒部」の運用再開について

●事務局より資料 2 に基づき、「ちょいのり黒部」の運用再開について説明を行った。

○川端座長

ご意見あれば願いたい。

○村上委員

登録制にすると市外から来る方が使いづらくなる。市外の方に使って欲しい思いが強いが、これでは市外の方を締め出すことになるのではと危惧している。市内市外の方問わず、気軽に使えるようにするのが本来の姿である。その辺りについてどう考えているのか。

○事務局

事務局としても、運用再開にあたり市外の方が使いづらくなることは危惧している。しかし、まずは運用再開にあたり、このような対応で臨みたいと思っている。今後、市外から来る方についても気軽に利用できるような、何かしらの方策を考えたいと思っている。

○川端座長

登録の対象は市民に限らないということによろしいか。

○事務局

登録について市民限定にはしない。ただ、登録制とした場合、市外の方が登録しづらくなると考えている。

○川端座長

その他にご意見があればお願いしたい。

○波多野委員

資料の「対応①：事前登録制の導入」について、問題が発生した際は、登録者へ利用マナー・ルールの周知を行うことが可能と記されているが、本人確認をして個人を特定できるのであれば、マナーやルールを守れない利用者に対して、自転車の使用を禁止することは検討しないのか。

○事務局

何か問題があったときに、特定の利用者へ通知するわけではなく、利用者全員に問題の事案について連絡をする予定でいる。今までは張り紙での対応しかできなかったが、今後は利用する方を特定して周知できると思っている。もちろんマナーの悪い利用者が特定できれば、直接伝える考えでいる。

○波多野委員

了承した。

○原田委員

個人情報事前登録することから、会員制に変わるわけである。すぐに実施するのは難しいと思うが、会員にポイントを付けてあげるなど、個人情報を登録することでプラスになることをしてはどうか。登録することで、利用者に何かメリットがあれば良いと思う。

また、学生に対して、通学利用は禁止としつつ、それ以外は利用可能としているが、とても難しいさじ加減であると思う。何か工夫をするのか。

○事務局

ご指摘の通り、通学利用への対応は難しいさじ加減である。ただ、制限は設けたくないと考えている。事前登録とすることで、何かしらのメリットを付けることについては、多方面から意見を聞く中でも、同様の意見があった。単なる個人情報の登録ではなく、将来的に会員登録制にして、利用意識を高めてもらうことを進めていければ、良い形で「ちょいのり黒部」が使われるかもしれないと考えている。

○川端座長

原田委員、ご理解いただけるか。

○原田委員

了承した。

○川端座長

その他に質問はあるか。

○浅野委員

事前登録制にしたとしても、今回の対応では個人が特定できず、注意したところで登録者全員に伝わるだけで、それでは効果が薄い。それは作業部会でも出た指摘であり、作業部会での指摘に対応できていない。こういった対応をするのか教えて欲しい。

○事務局

問題利用への対応として、できる限りの対応をしていると思っている。ご指摘の通り、現段階では個人を特定するところまではできない。今までと異なるのは、登録制にすることで、利用者としての意識を持っていただけることである。まずは登録制にして、状況をみながら、

その後検討を行いたい。

○浅野委員

実際にマナー違反が起きているなかで、これらの対応で十分なのか疑問がある。

次に、運用するにあたり、現在の 25 台の運用台数で足りているのか疑問である。

○事務局

今年は 5 台増やす予定でいる。今後、様子を見て増やしていければと思っている。

○浅野委員

作業部会でもあったように、放置自転車の利用の検討はどうなっているのか。他の自治体では放置自転車の活用事例もあるそうだが、黒部市でも放置自転車を活用するなどして、台数を増やさなければ、利用者の利便性も向上しないと思っている。方針を考えていただければと思う。

○事務局

貴重な意見として頂きたい。できる限り対応できるところは、対応していきたい。ただ、所有者不明の自転車については、黒部市では所有者がいるという判断のもとで処理している。ただ、様々な事例もあるので、今後勉強させていただきたいと思う。

○浅野委員

処理しているという事実があるならば、活用できる流れを作っていただく等して、取り組みを前進させてほしいと思う。今後ともよろしくお願ひしたい。

○川端座長

放置自転車の利用については作業部会でも話があがっていた。ぜひ進めてほしい。ほかに質問はあるか。ないのであれば、承認させて頂いてよろしいか。

（拍手にて承認）

○川端座長

ありがとうございます。

(3) 交通まちづくり創生事業について ((1) 平成 30 年度事業の中間報告について (2) 平成 30 年度次世代交通システム実証実験について (3) 平成 30 年度モビリティハブの整備概要について)

●事務局より資料 3～5 に基づき、交通まちづくり創生事業・平成 30 年度事業について説明を行った。

○川端座長

何か質問はあるか。

○長谷川委員

資料 4 の中で、利用者が僅かだったことについて、事務局からは今後アンケートを行い考察するという報告を受けたが、アンケートについても、分析できないようなアンケートではもったいない。事務局である黒部市のみならず、コンサルタント業者も含め、次の取り組みに繋がるようなアンケートの作成をお願いしたいと思う。実証実験について、十分にチェックできるような設問をコンサルタントが作り、事務局はコンサルタントが作ったアンケートをそのまま使うのではなく、アンケート内容そのもののチェックも十分に行って欲しいと思う。

○川端座長

よろしくお願ひしたいと思う。その他にご意見はあるか。

○原田委員

実験参加登録者が 107 名で、そのうち利用者が 12 名であると報告を受けたが、説明対象住民が 107 名で、その全員が登録をしたということになる。これは町内会で説明を行い、全員が登録するまで、家に帰さないといった、強制的な参加登録にも思える。積極的に登録した人の数字なのか、よく分からない数字である。

次に、収支率 1 パーセントと言うと、箸にも棒にも掛からない数字である。普通は、利用も少なればコストも掛からないものである。収支率 1 パーセントという、衝撃的な数字をどう考えているのか。

そして、今回の実験では、相乗りタクシーにおいて、利用者が誰かを誘って出かけることが可能なのが、一番大事な評価ポイントである。その評価について何も書かれていないことが問題ではないか。今後、自動運転が実現しても、利用者が相乗りを受け入れられるのかによって、混雑が解消されるのか、便利になっても混雑は解消されないのか、状況が変わってくる。これは今後議論すべき重要なテーマである。なんとなく予約システムが動いたという実験で終わらせず、この実験における相乗りの状況について評価をすべきである。

○能登委員

利用者 12 名の中に何度も利用した人はいるのか。

○事務局

利用者数としては 12 名であり、何回も利用する人もいた。その結果として、延べ利用便数が 42 便となっている。

○能登委員

延べ 42 名が使ったということで良いのか。

○事務局

そうである。

○川端座長

原田先生のご意見について、事務局の回答はいかがか。

○事務局

まず、地域住民に対して、強制的に登録をさせたことはない。参加者の声としては、非常に便利で、自宅まで迎えに来てくれるのであれば、今後も利用したいという声があり、感触としては非常に良かった。ただ、利用者数としては僅か 12 名に留まっている。

収支については、運行経費をどう設定するかにも左右されと考えている。今回、運行事業者に運行委託するにあたり、いわゆる貸し切りタクシーに近い状態で契約をしている。本来の業務を優先していただくところで、どうしてもこの期間でないと都合がつかないとか、そういった諸々の事情がある中で、このような契約となった。単純に運賃収入を運行経費で割り返すと、1 パーセントという数字になるが、1 回の運行における運行経費設定によっては、収支率が大きく変わることは、事務局も理解している。

これからアンケートを実施しながら評価していきたいと考えているが、ご指摘いただいた内容を全て反映することは、難しい部分があると考えている。今ほど頂いたご意見等も含め、アンケート実施前にご教示願うこともあると思うので、その節はよろしくお願ひしたい。

○原田委員

運行事業者との契約内容は、社会実験の状況に応じて変わってくるので、貸し切りタクシーに近い形で契約していてもかまわない。しかし、その契約内容をもとに、収支率が 1 パーセントであるとして、評価するのはおかしいと思う。利用者が個々の事情によりタクシーを使う状況に比べ、相乗り時はお出かけが増えそうとか、利用者が実際に相乗りをしているかといったところを評価のポイントにするべきである。事前説明会のときに、そういった仕掛けを行わなければならない、一緒に出掛けるよう促すことが必要だった。このシステムが良いか悪いかといった評価は、今の評価とは別の観点でしなければならず、収支率 1 パーセントを大きな課題としてあげるのではなく、相乗りの状況の評価するべきである。

○川端座長

リピーターがいることは、利便性が高いことに気づいた人がいるということだと思う。やはり使われる工夫を今後も考える必要がある。原田先生がご指摘されたように、今回の運行のなかで相乗りが何便あったかが示されれば、この事業に対して違う評価ができると思う。アンケート実施時に、利用者に対して、利用時に相乗りをしたか確認する設問項目を設けてみてはどうか。

○事務局

ご意見を踏まえてアンケートを作成したい。実証実験について、これで終わりにせず、今後に繋げていけるようにしたい。

○川端座長

承認させて頂いてよろしいか。

（拍手にて承認）

○川端座長

ありがとうございます。

(4) 交通まちづくり創生事業について ((4)平成 31 年度事業計画について)

●事務局より資料 6 に基づき、交通まちづくり事業・平成 31 年度事業計画について説明を行った。

○川端座長

何かご質問はあるか。平成 31 年度は 4 年計画の最終年度でもある。

○石橋委員

コミュニティ通信を、平成 31 年 2 月付で発行するということだが、デマンドタクシーについても記載されている。デマンドタクシーは今後も実証を続けていくのか。

○事務局

デマンドタクシーはこれまでも運行しており、今後も運行していく考えでいる。

○石橋委員

先ほどの収支率の話にもあったが、貸し切りタクシーといった形で契約しているのであれば、実車区間をメーターで測り、本来のメーター走行だと運賃がどれほど掛かっているのか、集計をしていくことで将来的な運賃設定の検証ができるのではと思う。

○事務局

デマンドタクシーについては、実験ではなく実際に運行している。デマンドタクシーにつ

いてはこれまで通り運行し、実証実験については、先ほどのご意見を踏まえ検討したいと思います。

○川端座長

作業部会では、関係事業について、平成 32 年度以降の対応について質問があったが、事務局からは平成 32 年度以降も引き続き検討するといった言葉も出ている。

その他に質問はあるか。なければ、承認させて頂いてよろしいか。

（拍手にて承認）

○川端座長

ありがとうございます。

報告事項

黒部警備株式会社の合併について

●事務局より資料 7 に基づき、黒部警備株式会社の合併について説明を行った。

○川端座長

報告の通りである。よろしくお願ひしたい。

以上で議案は全てになる。

その他

○川端座長

原田委員に、協議会全体を通じたコメントを頂きたいと思う。

○原田委員

最初に大野市長が述べられたが、持続可能な公共交通網の形成に向けて粘り強く頑張っていたきたい。持続可能な公共交通網の形成は一朝一夕にいくものではないと思う。市民の暮らし方を、公共交通を利用する暮らし方に変える必要があるが、公共交通のサービスが浸透するまでには時間が掛かり、どの地域でも同じような状況である。しかし、その中でいかに頑張るかだと思う。ここに居られる皆さんは、公共交通の利用促進をコアで進めている方々なので、皆さんにはぜひ頑張っていたきたいと思う。

また、相乗りといった使い方が、実際どれくらい可能なのかは、今後の大きなポイントになると思う。

○川端座長

相乗りやシェアといったキーワードは、公共交通に限らずこれからの時代のトレンドとなるだろう。その他にご意見がないようなので、座長としての役割を終了させていただく。

閉会（大野市長）

●市長より挨拶を行った。

本日も委員の皆様方には、大変真剣なご議論・ご協議をいただきまして、誠にありがとうございました。また川端座長におかれましては、円滑な議事・進行ありがとうございました。最後に原田先生には、貴重なご意見いただき感謝しております。今回は、色々な協議・報告

がありましたが、交通まちづくり創生事業が最終年度を迎えることは、大きなポイントであり、皆様方のご発言の中にもこのことを気にされながら、ご質問・ご意見をいただいていたように実感をいたしております。交通まちづくり創生事業は、初年度は 100 パーセントの補助事業で始まり、以降来年までは 50 パーセントの補助事業ということで、そういった力を借りながら、本市の持続可能な新公共交通とは何かと追及してきたわけであります。

大事なことは、これらの取組を通して本市が、持続可能な公共交通網の形成に取り組む地方都市のモデルになることですが、それ以上に大事なことは黒部に來る方々や黒部市民がいかにか公共交通を使って生活できるか、観光できるかであって、主人公はその方々であろうと思っております。事業は最終の年である 4 年目となるが、この後どうするのかは、我々に課された課題でありますので、これからも皆様方から貴重な意見を賜りたいと思っております。

「ちょいのり黒部」に関しては、私も大変悩みました。世の中に悪い人がいなければこのようなことは起きない。非常に悩ましい問題ではありますが、職員も努力し、総合的に判断して 4 月から再スタートしますが、その責任を取るべき立場である私が思っているのは、この対応が絶対ベストなものではなく、限りなくベストに近いベターなものであるということです。「ちょいのり黒部」についても皆様から、貴重なご意見を賜りまして、それを踏まえて職員一同頑張ってまいりたいと思っております。

本日お集りの皆様方には、本協議会の委員として、また、それぞれのお立場から、本市公共交通機関の整備・発展に、引き続きご指導・ご協力を賜りますようお願いを申し上げます。閉会にあたってのご挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

○事務局

以上を持ちまして、黒部市公共交通戦略推進協議会 第 25 回協議会を閉会する。

以 上